

## 第 24 回 (平成 21 年度第 1 回) ISO/SR 国内委員会 議事録

1. 開催日時 : 平成 21 年 6 月 18 日 (木) 10:00~12:00

2. 開催場所 : 主婦会館プラザエフ 7階 カトレア

3. 出席者 :【敬称略】 出席者(○)、欠席者(×)、代理出席者 (△)

委員長: 松本 恒雄(一橋大 大学院)○

副委員長: 稲岡 稔(セブン&アイ・ホールディングス)×

委員: 青木 修三(環境経営学会)○、青木 健(日本労働組合総連合会) ○、足達 英一郎(日本総研)○、石飛 博之(環境省)△(代理: 館内)、逢見 直人(日本労働組合総連合会)○、長見 万里野(日本消費者協会)○、海野 耕太郎(厚労省)△(代理: 長良)、鍛冶舎 巧(パナソニック)×、数間 浩喜(損保ジャパン)○、加藤 さゆり(全地婦連)×、川辺 英一郎(内閣府)×、熊谷 謙一(日本労働組合総連合会)○、黒田 かをり(CSO ネットワーク)○、斎藤 仁(日本経団連)○、佐野 真理子(主婦連合会)○、白須 達郎(新日本製鐵)×、鈴木 均(NEC)○、首藤 恵(早稲田大学)○、関 正雄(損保ジャパン)○、高 巖(麗澤大学)×、田中 宏司(東京交通短期大学)○、田沼 千秋(グリーンハウス)△(代理: 中島)、富田 秀実(ソニー)×、中村 善雄(UIゼンセン同盟)○、成田 裕紀(内閣府)○、西堤 徹(トヨタ自動車)○、平塚 敦之(経産省)○、藤代 尚武(経産省)×、藤原 幸則(関経連)○、古谷 由紀子(NACS)○、堀江 良彰(難民を助ける会)○、水谷 綾(大阪ボランティア協会)○、三井 清人(JQA)○、村松 衛(東京電力)△(代理: 清水)、横田 洋三(人権教育啓発推進センター)×

関係者: 長野 寿一○、濱坂 隆○、宮澤 武明○(以上 経産省)

佐藤 洋○、小堀 紀子×(以上 三菱総研)

説明者: 大久保 暁子(連合)○

オブザーバー: 島 弘志(JSA)○、深田 静夫(オムロン)○

事務局: 岡本 裕○、佐藤 恭子○、櫻井 三穂子×(以上 JSA 記)

4. 議事次第:

1. 議事及び配布資料、並びに委員会構成の確認
2. 平成 21 年度事業計画 (報告)
3. ISO/TMB/WG on SR ケベック総会の報告
4. 今後のスケジュールの確認
5. その他

5. 資料：

SR24-01	平成 21 年度 ISO/SR 国内委員会名簿（案）
SR24-02	平成 21 年度事業計画
SR24-03	ISO/TMB/WG on SR 第 7 回ケベック総会の報告
SR24-04	日本コメントの総会での扱い
SR24-05	コペンハーゲン総会までのスケジュール（案）
SR24-06	DIS コメント・投票の提出の手続きに関する細則（案）

参考資料：

1. 第 7 回 ISO/TMB/WG SR 総会決議（日・英）
2. Report of IDTF（日・英）
3. Drafting Plan: Quebec City-Copenhagen（IDTF N094）
4. DIS 及び FDIS における手続き
5. ISO26000 開発スケジュール

6. 議事概要：

6. 1 議事、配布資料及び前回議事録の確認

事務局から、議事及び資料の確認を行い、追加議事もなく、議事は異議なく承認された。

また、国内委員会規約 8 条 2 項の成立条件に照らして、今回の国内委員会がその条件を満たすことが確認された。

続いて、資料 SR24-01 に基づき、今年度の委員会構成の確認を行い、委員交代により今回から新たに加わった委員の紹介があった。

- ・ 厚生労働省 海野委員（鯨井委員と交代）
- ・ 新日本製鐵 白須委員（進藤委員と交代）
- ・ 内閣府 成田委員（矢野委員と交代）
- ・ 関西経済連合会 藤原委員（仲川委員と交代）
- ・ 難民を助ける会 堀江委員（田尻委員と交代）
- ・ 大阪ボランティア協会 水谷委員（下澤委員と交代）
- ・ 三菱総合研究所 佐藤様、小堀様（関係者として追加）

続いて、事務局から、これまで当委員会の委員及びエキスパートとして国内外でご尽力いただいた深田静夫氏がエキスパート及び委員を辞退し、その代わりに成田委員が政府エ

キスパート及び委員に就任することとなったことについて説明があった。深田氏のこれまでの尽力に対して委員長から国内委員会を代表して感謝の意が述べられた後、深田氏から国内委員会に対して退任の挨拶があった。

また、今年度も引き続き委員長を松本恒雄氏にお願いすることが事務局から提案され、了承された。

さらに、委員会規定第 8 条 3 項に基づき、ケベック総会に労働エキスパートとして参加した大久保暁子氏に総会報告のため本日の委員会に出席いただいていることが事務局から説明があり、了承された。

## 6. 2 平成 21 年度事業計画（報告）

資料 SR24-02 にしたがって事務局から平成 21 年度事業計画について説明があった。

## 6. 3 ISO/TMB/WG on SR ケベック総会の報告

資料 SR24-03 及び SR24-04 にしたがって、5 月 18 日～22 日にカナダのケベックで開催された ISO/TMB/WG on SR 総会の報告が行われた。

### <質疑応答>

- ・ 三井委員：ISO 規格として発行されるのに、WTO のコンテキストでは国際規格とはみなさないということを書き込むのは間違えなのではないかと思うが、このまま放置していいのか？
- ・ 大久保氏：読み方として、ISO としてはあくまで国際規格ではあるが、WTO 適用上では国際規格とはみなさないという説明だった。これがどのような影響を及ぼすのかというのは、今後の IDTF などにおける議論を待ってからということになるかと思う。
- ・ 濱坂氏：ご指摘の点はごもっともだが、このようになったのには政治的な力関係が背景にある。今後どのように政治的に対処していくかについては、熊谷委員ともご相談させていただきたい。
- ・ 熊谷委員：IDTF でも、これをイントロに含めるのは仕方が無いという判断だったが、総会で強い政治的な発言があり、結果としてスコープに移すことになった。マラケッシュ協定と法的に折り合える表現なのかについては、不安定さを残している。
- ・ 青木（修）委員：中国やインドとの折り合いが大事になってきているのではないか。アジアフォーラムを強化するなど、日本からこれらの国を積極的に巻き込む算段はないのかということを感じている。
- ・ 平塚委員：手続きの面で透明性の確保が必要。この規格を利用した人がひどい目にあわないようにしたほうがいい。WTO/TBT では、パネルに持ち込めるということにはなっておらず、通告に対して回答をすればいいことになっているが、その責任は各国政府が負うことになる。WTO 違反の可能性で使われなくなると困るのではないか。また、途上国から見るとこの規格は非関税障壁に見えてしまうだけに合意は容易では

ないと思うが、サプライチェーンの側面を強調していけばいいのではないか。

- ・ 足達委員：Annex は各国に委ね、ISO 全体としては Annex を作らないという案があってもいいのではないか。
- ・ 熊谷委員：これまでの経緯から言うと、グローバルコンパクト、GRI、SA8000などを本体に書くか書かないかの議論があり、Annex に入れるということでやっと落ち着いた。Annex をなくすというとその問題がまた出てきてしまう。中国とインドについては、今回の総会で特に配慮した。
- ・ 斎藤委員：総会での中国とインドとの調整のやり方については、何故インドと中国を特別扱いするのかという不満があった。これまで推進派にまわっていた南米の途上国から、あたかも途上国の意見を代表しているように言うのはやめてほしいという意見もあった。
- ・ 松本委員長：Annex については、次の 4 つくらいの意見に分かれており、どのあたりで折り合えるかということではないか。日本は③のあたりではないか。  
①Annex が無かったら意味がない。②Annex もあったほうが相互補完的でいい。③本体だけで十分で Annex はなくてもいい。④Annex があったらだめ。

#### 6. 4 今後のスケジュールの確認

資料 SR24-05 及び SR24-06 にしたがって、事務局からコペンハーゲン総会までのスケジュール案及び DIS コメント・投票の提出の手続き案について説明があった。

#### 6. 5 その他

事務局から、IDTF 議長の Jonathon Hanks 氏を招いて 7 月 7 日（火）に開催する講演会の案内があった。

以 上